

我が故郷の観音巡礼

岡山県井原市 稲倉・大江地区 秩父観音霊場三十四札所 巡拝メモ

本稿は、(旧)岡山県小田郡稲倉村に生を受けた者として本地の秩父観音札所の巡拝だけでは片手落ちであるので、八十路坂に掛った令和4年9月に、我が故郷・岡山県井原市在の稲倉・大江地区秩父観音三十四札所ミニ巡礼道を巡拝した時の簡単なメモである。本稿は、同ミニ巡礼札所は場所が分りにくいので、今後巡拝される方々の道案内のご参考のためにその概要だけを簡単に記したものである。

故郷を離れて60有余年、偶に先祖の墓参りなどで帰郷するだけで、両親に親孝行する機会も無く、私自身も馬齢を重ねて八十歳になってしまった。巡礼路には山坂道が多くて年寄りには草臥れたが、小学校に通っていた頃に道草した山道などもあって、往時の追憶が髣髴と蘇ってきて懐かしかった。

♪♪兎追ひし彼の山、小鮒釣りし彼の川 夢は今もめぐりて 忘れがたき故郷♪♪

小学校時代の同級生も今では鬼籍に入られている方も多いが、小学生の頃に稲倉小学校の校庭で馬乗りをして遊んだり、下校時の道草で稲木川で一緒に魚釣りや鰻籠を沈めて魚を捕ったりした今は亡き級友のことなどが蘇ってきて、これも何かの仏縁であろうかと西方に向かってご冥福を祈った次第である。

それにしても、稲倉・大江地区の秩父観音三十四札所巡礼の慣習は既に300年近く前の江戸中期に始まったそうであるが、生きて行くだけでも大変であったであろう往時の民衆がご本尊仏や堂宇、巡礼路等の勧請や普請を行なって仏縁を守り続けて来られたということには只々感嘆するばかりである。

私の場合は、リタイアしてから暇が出来たので、四国歩き遍路2巡、西国、坂東、秩父の日本百観音霊場札所巡拝(秩父は2巡)も結願して通算330寺を巡ったが、そもそもが“夜遍路”と物見遊山が目的という塩梅であったから、信仰心というも烏滸がましく、従って功德や瑞兆や験とは無縁の道行であった。多少なりともご利益があったとすれば、知らない世間や珍しい風物、山海の特異な景観である深山幽谷が浄土のように見えたり、それにもまして、巡礼の途中で御接待頂いた地元の方々、偶々お会いした同行の方々から頂いた御接待やご喜捨、元気印の素などであろうか。

前世の因縁が悪く、加えて今生でも悪行の限りを尽くしてきた私は、山越の阿弥陀仏の華の台^{うてな}に迎えられることは金輪際無いが、閻魔大王や餓鬼などが枕辺に顕れて何処か怖ろしい所に牽いて行かれる夢を見ることはしょっちゅうある。また、二河白道をトボトボと辿っている時に魑魅魍魎に追いかけて夢の中でウンウン呻ることもある。もう少しの間、此岸に留まることを許されるなら、今までに頂いた仏縁を糧として精進の道を歩めればと願うばかりである。令和4年10月 合掌。

[参考資料]

◎井原市商工課編集発行『市内四国八十八ヶ所巡り案内書』「秩父観音霊場巡りについて」(昭和51年)。

(上記資料は、井原市下稲木町「摩尼山 西光寺」ご住職のご教示による。ご厚意深謝)

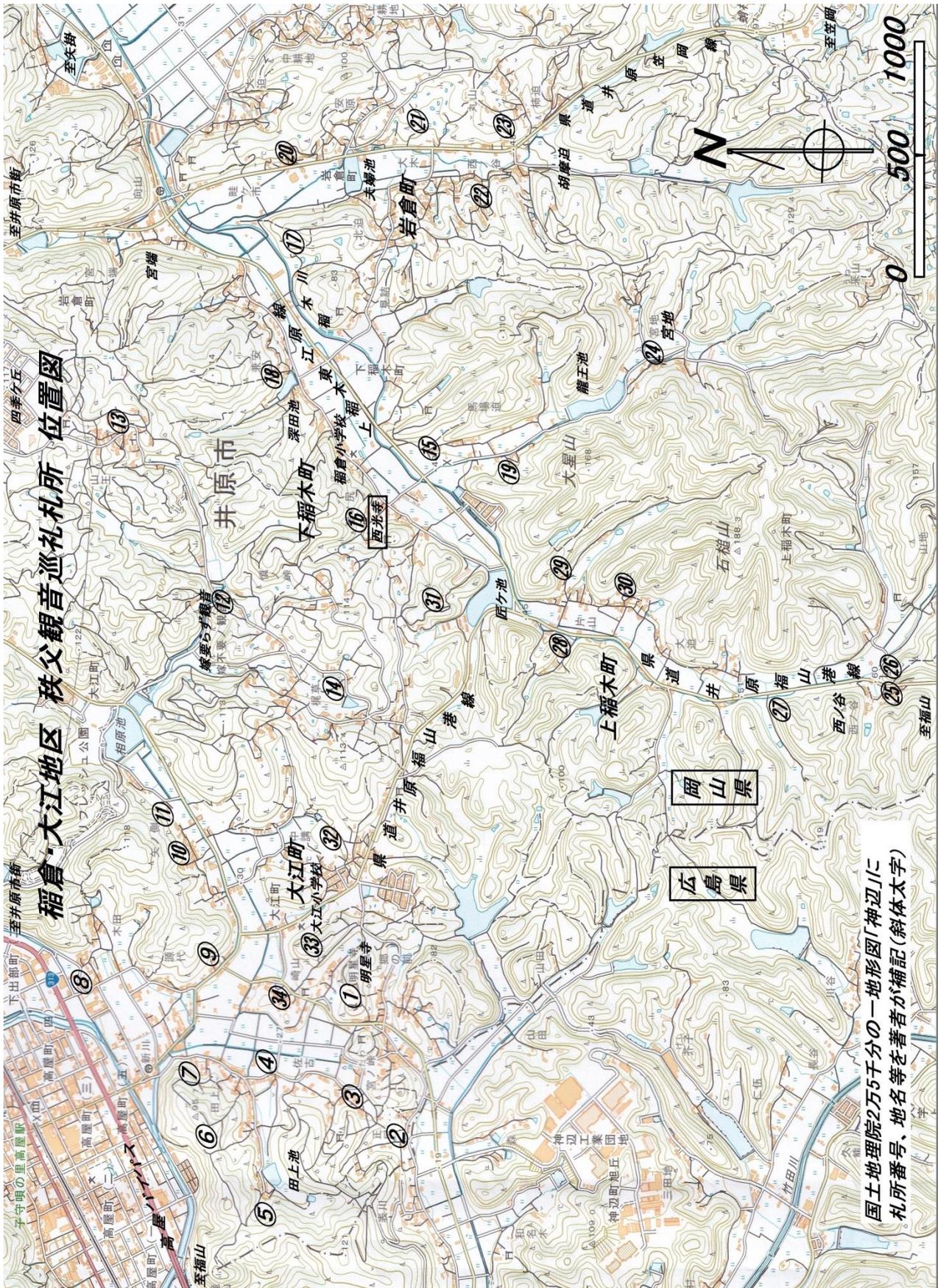
※次頁以降に記したそれぞれのミニ札所の札所番付(番号)、山号、寺号は台座の刻字等に拠る(判読困難な札所は上記案内書等に拠った)。寺号の後の()内に記した宗派、本尊は、秩父観音霊場三十四札所本地のものを適用した。

※各札所の所在地は全て岡山県井原市内であるので、県名・市名は省略し、町名のみ記した。

※稲倉・大江地区の秩父ミニ巡礼路や祠には導標や看板の類は一切無いので、ミニ札所の場所が非常に分りにくい。

稲倉・大江地区 秩父観音巡礼三十四札所 位置図

①～⑳：秩父観音霊場 本地札所番付番号



国土地理院2万5千分の一地形図「神辺川」
札所番号、地名等を著者が補記(斜体太字)

①第1番「誦経山 四萬部寺」(曹洞宗、聖観世音菩薩)

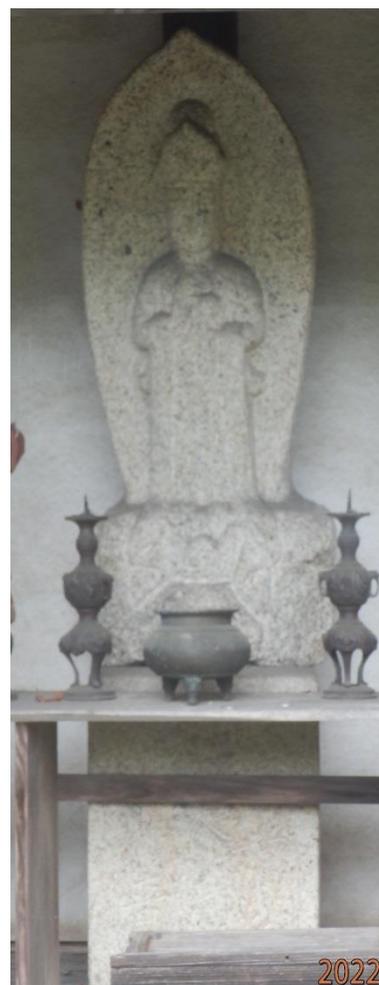
本地秩父観音霊場34札所巡礼の発願寺である札所第1番・四萬部寺の稲倉・大江地区巡拝路の発願観音堂は、大江町の山中にある明星寺境内にあった。明星寺は元禄年間(1630)年に創建された古刹だそうで、山を背にしてこんもりとした台地の上の広い境内に建てられていた。境内を囲む築地は端正な石垣と真っ白な漆喰壁が調和した見事なものでこの寺の風格を感じさせた。

大江地区には旦那寺はこの寺しかないそうだから、かつては村全体の菩提寺であったのであろうし、現在でもそうであろう。

そういえば、この稲倉・大江地区のミニ秩父観音霊場がお寺の境内に祀られている札所はこの第1番・明星寺、第12番・嫁要らず観音院、及び第16番・西光寺(稲倉地区)の3札所のみで、他の31観音堂は寺院の境内ではなく四辻や墓場や山中などの祠に置かれていた。祠も無く石仏が野ざらしになっているような札所もあった。この地区の現役の寺院は上の3寺院だけであるからこれも当然のことであろうか。

本地の第一番「四萬部寺」は、平安時代の永延年間(988年)創建の名刹であるが、同寺の観音堂は元禄4年(1697年)の創建であるから観音巡礼の札所としてはこの明星寺も同時代のものかもしれない。

明星寺の観音堂は下左側の写真に見えるように、建物は小さいながらも重厚な瓦葺の方形屋根と白壁が美しい立派な御堂であった。その瓦屋根のそり具合は本地の秩父四萬部寺の観音堂の空に突き出した向拝とシャープに反った入母屋造り瓦屋根の立派さにも匹敵するものだった。祀られている聖観世音菩薩立像は素朴な刻彫であったが、それなりの由緒が感じられる鑿であった。



(明星寺観音堂の聖観世音菩薩)



(方形瓦屋根の反り具合が見事な観音堂)



(明星寺の漆喰白壁が美しい。左手前の仏像は法界地藏)

②第2番「大榎山 真福寺」(曹洞宗、聖観世音菩薩)

第1番が祀られている明星寺から県道102号を福山方面に少し行った県境沿いの正尻という集落の山際の道路脇にあった。岡山県と広島県との県境の傍で、すぐ西側は広島県。

第二番は第一番と同じく、方形瓦葺きの立派な祠に祀られていた。この辺りは長閑な田圃の田園地帯であった。本地の第2番「真福寺」は山中の峠にあるが、その本地の様子を伺わせるような風物は何も無かった。

他の札所にも共通することであるが、稲倉・大江地区に勧請された秩父観音霊場札所の夫々は、どのような理由(順番)からそれぞれの地に祀られたのであろうか? 本地の観音霊場の札所番号を稲倉・大江地区のそれぞれの札所に割り付けた際には何らかの理由があつてそのように札所番付されたのであろうと思うが、今となつてはそれを調べる手立ても無いであらうし、また、詮索しても詮無いことかも知れない。祀られた観世音菩薩がどのような来歴や由来や縁起であらうと、左様な詮索はサッパリと捨てて、すべからく「おん ありきや そわか」

(観音菩薩真言)や
「南無観世音菩薩」
を唱えればそれで
往生できると考
える方が信仰心とい
うものであろう。

(所在地:大江町
正尻)



③第3番「岩本山 常泉寺」(曹洞宗、聖観世音菩薩)

第2番札所のすぐ北東側の道端にあった。本地の札所は山を背にして前が田圃に開けた地形に位置しているが、ここも同じような田圃の場所にあった。本地の札所の観音堂が立派な唐破風付の向拝を持つ堂々とした御堂であるのに比べると、ここの祠はやや寂しい佇まいであった。逆に聖観世音菩薩石仏は摩耗はしていたが、格調が高い鑿の刻みを感じさせた。

(所在地:大江町宮ノ峠)



④第4番「高谷山 金昌寺」(曹洞宗、十一面観世音菩薩)

第3番札所の少し北側の畑の中にある。祠の中には三体の仏像が祀られていた。摩耗しているのではっきりとは読めなかったが、中央の台座に本地第四番の「金昌寺」という文字が見えた。しかしその上に安置されている仏像は本地第4番「金昌寺」の本尊である十一面観音像ではないようであった。

左右の仏像は頭部が失われていて何の仏様か分からなかった。たぶん、同じ祠にその近辺にあった幾つかの野仏を合祀したものであろうから、本地第4番「金昌寺」と刻印された台座の上に間違っって他の石像を載せたのではなかろうか。どれが本地のご本尊かを特定することはできなかった。

(所在地：大江町田上)。



⑤「小川山 語歌堂」(臨済宗南禅寺派、准胝観世音菩薩) (所在地：大江町田上) (写真次葉)

第4番札所の少し西側にある。本地の札所は秩父盆地の真ん中の開けた平坦な田園地帯にあるが、こちらは丘陵地帯の山中の樹林の中の墓地の一角にあった。周囲は鬱蒼とした藪であったのでやや陰気な場所であった。田上池という農業用水池のすぐ上で、すぐ傍には広島県との県境が通っている。

秩父観音堂と西国29番観音堂、加えて大師堂の三つの祠が並べて祀ってあった。その中でも秩父観音堂の祠が一番大きくて新しいものに見えた。近年建て替えられたのであろう。西国29番とは西国観音霊場第29番札所がある京都府舞鶴市の松尾寺(真言宗)である。松尾寺のご本尊は馬頭観世音菩薩であり、馬頭観音を本尊としている寺は全国的にも極めて少ない。日本百観音霊場百札所の中でも馬頭観音を本尊としている札所は、この西国観音霊場の松尾寺と秩父第28番の橋立堂の2寺のみ。ここ大江の秩父第5番札所に勧請されている西国29番松尾寺の観音菩薩は木造と石像の二体が勧請されていた。どちらも相当に古そうで由緒ありそうに見えた。話が前後するが、准胝観世音菩薩を本尊とする寺も少なく、日本観音百霊場ではこの秩父5番「語歌堂」と西国第11番「上醍醐寺」の2寺のみ。

大師堂に祀られているのは言わずと知れた弘法大師であるから、ここに祀られている三堂の祠を拝めば西国観音巡礼33札所、及び四国遍路88ヶ所、合計121寺が同時に廻れるという寸法であろう。よって、小生も日本百観音霊場札所を2巡、四国遍路も3巡結願したことになる。有り難や有り難や。



(宝篋印塔の左奥：秩父第5番「語歌堂」札所、中央：大師堂、右：西国観音霊場第29番「松尾寺」札所)



(秩父第5番勧請祠 左：准胝観世音菩薩、右：地藏菩薩)



(准胝観世音菩薩 拡大写真)



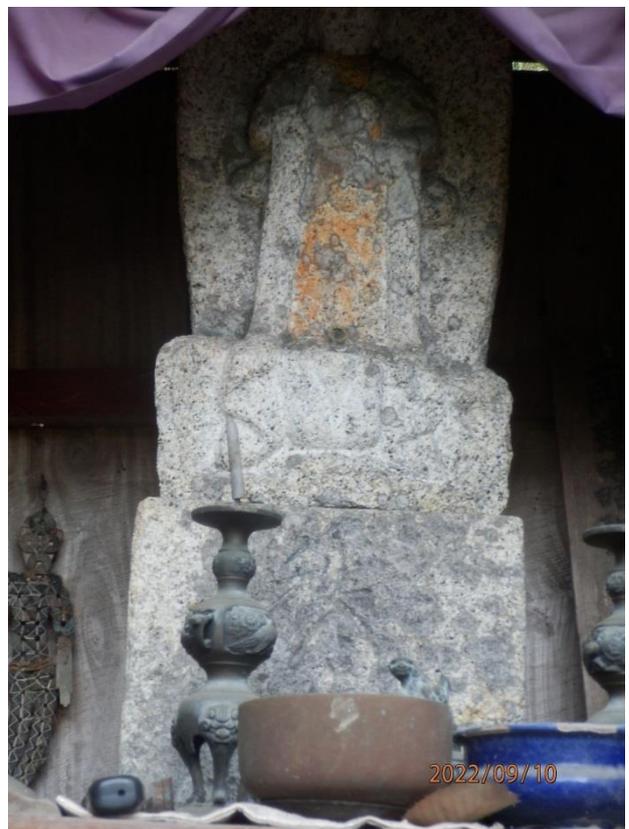
(西国観音霊場第29番「松尾寺」より勧請の馬頭観世音菩薩 左：石像、右：木造)

⑥「向陽山 卜雲寺」(曹洞宗、聖観世音菩薩)

5番から田上池を下った市道の山際墓地の隣にある。本地の第6番卜雲寺も秩父盆地南縁の山際にあった。



(所在地：大江町田上)



⑦「青苔山 法長寺」(曹洞宗、十一面観世音菩薩)

6番から山際の市道を北側に廻り込んだ道路際のすぐ上にあった。登り口右側の畑の畦に「南無阿弥陀仏」の小さな石碑があったので、本来は阿弥陀如来像が祀られていた場所だったかも知れない。

ここに祀られている仏様は十一面観世音菩薩の筈であるが、丁度頭部の上部が祠の棧に隠れていて確認できなかった。

(所在地：大江町開端)

第7番を参って市道に戻ると、目の前に高屋の市街地が広がっていた。次の第8番札所にはその市街地に向かって高屋川支流に掛る新川橋を渡るが、その土手には大きな石碑が2本建っていた。何れも由緒ありそうな佇まいであった。

その内の一つは六字名号(南無阿弥陀仏)の文字が刻まれた石柱と聖観音立像が刻まれた石仏が並んで建っていた。傍に立てられていた標識板の説明によれば、安永7年(1,778年)の建立で、聖観音像の石碑は夭折した童女の供養碑だそうだ。蓮華の上に立つ観音様の立像は庶民的な刻彫であったが何か奥ゆかしい仏縁を感じるような風格があると同時に、ほのぼのとした温かみも感じられた。

もう一つは、この六字名号碑の向かい側に建っている題目碑で、勢いのある字体で「南無妙法蓮華経 日蓮」と彫られていた。日蓮宗の字体に特徴的なハネが左右に伸びている字体であった。天明8年(1,788年)の銘。



(六字名号碑と聖観世音菩薩立像)



(日蓮 題目碑)

⑧「清泰山 西善寺」(臨濟宗南禪寺派、十一面觀世音菩薩)

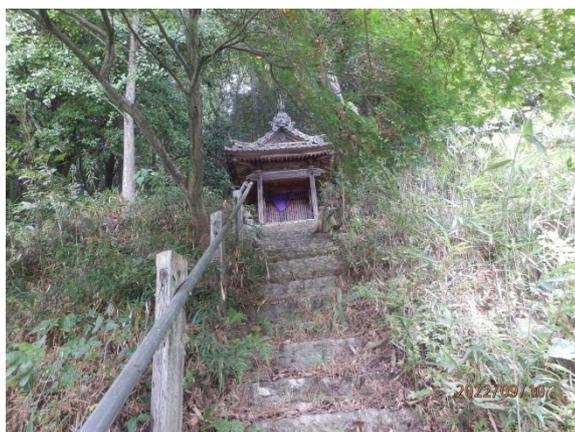
前述の題目碑がある所から高屋川の土手を少し上流に歩けばこんもりとした丸い丘(すくも山城跡公園)がある。この丘の天辺に第8番が祀られている。台座には摩耗して読みにくいが秩父八番と刻まれており、仏像の頭には十一面の觀世音菩薩が彫られていた。(所在地:大江町木田)。



⑨「明星山 明智寺」(臨濟宗南禪寺派、如意輪觀世音菩薩) (所在地:大江町源代)

第8番からその南側に連なっている標高百ほどの丘陵地帯の山裾を県道102号に沿って東に廻り込むと長閑な田圃の田園地帯が広がっている。この県道102号に大江小学校の方から来る県道井原福山港線がT字型に交わる交差点のすぐ山際に第9番がある。この県道102号線はリフレッシュ公園や相原池を經由して上出部町から井原市街地に至る広い道路であり、この第9番に続いて第10番、第11番の3つの札所がこの道路沿いの山際に繋がっている。

ここ第9番の祠は堂々とした瓦葺きであった。祀られている本尊は如意輪觀世音菩薩の筈であるが、本尊は格子戸の奥にお隠れになっていて拝顔できなかった。



⑩「万松山 大慈寺」(曹洞宗、聖観世音菩薩)

ここ第10番だけでなく、山中にある札所の祠や野仏は所在が非常に分かりにくい。まず、稲倉・大江地区の秩父観音巡拝路や札所に関しては、第一に案内板や道標といった標識や看板の類が物の見事に一切存在しないことが挙げられる。この第10番、直ぐ隣にある次の第11番もその例に洩れなかった。

ご自宅の庭続きの直ぐ傍の裏山に第10番と思しき祠があると思われるご自宅前の家庭菜園で草取り作業をされていた御婦人に案内を乞うたところ、「この地に嫁して半世紀になるが、未だかつてそのような観音様がおわしますことは聞いたことが無い。荒神様なら知っているが・・・」というお話であったが、念のためご近所の方に聞いて見ようと同行して下さった。そのご近所の方がたぶんその藪の中の墓地の外れではないかと教えて下さったのが第11番であった。第10番を小一時間ほど蚊とブヨに喰われながら藪の中を探し回ったが所在が掴めなかった。地図によれば第11番と第10番は僅か50mと離れていない位置にマークされているのだが……。先程のご案内を乞うた御婦人も「折角ご遠方から来られているので是非探してあげたい」と同道してあちこち山中の藪の中を探して下さったのだが、見つからなかった。

しかし、第10番の観音菩薩にはお目に掛かれなかったが、良い事があった。この御婦人は同じ井原市内の上稲木町という所のお生まれだそうで、その上稲木町には沢山のご親戚が棲んでおられるそうだが、その内の何人かのお名前を挙げられたが、その殆んどは私の小学校の同級生であった。

既に鬼籍に入られた方もおられるが、懐かしかった。また、若い頃は市役所にお勤めされていたそうで、その時の上司(当時は課長)が何年前かに市役所の助役を2期務められた方だったそうで、実はこの元助役M氏は私の小学校時代・中学校時代を通じて一番親しかった友人(悪ガキ仲間)であり、実家に帰郷する度に市役所の助役室を訪れて秘書課で出されたお茶を頂きながら市議会に出席している助役が戻って来るのを待って、それから二人で赤提灯に出掛けて一献傾けるのが楽しみだった。

誠に残念なことであるが4年程前に鬼籍に入られたが、偶々今回も昨日東江原町にある彼の墓所に参って来たばかりだという話もして、話しが弾んだ。その御婦人のお名前を聞き忘れたが、70歳台くらいの上品な方であった。この紙面を借りて心から御礼申し上げる次第である。これも観音様が授けて下さった仏縁であろうか。合掌。

⑪「南石山 常楽寺」(曹洞宗、十一面観世音菩薩)

前項で書いたように、ご近所の方に教えて頂いたのですぐ分かった。相原池西南山際の藪の中の墓地の一角ににあった。宝篋印塔の傍に祠が二つ並んでいて、左の方が秩父観音堂、十一面観世音菩薩立像。右側の祠は地藏堂、地藏菩薩半跏踏み下げ坐像。(所在地：大江町矢ノ側)



⑫「仏道山 野坂寺」(臨濟宗南禪寺派、聖觀世音菩薩) (所在地：大江町 嫁要らず観音院)

井原市の観光名所の一つとされている「嫁要らず観音」の境内にある。前置きが多少長くなるが、「嫁要らず観音」というのはこの観音様にお詣りすれば老いても嫁の手を煩わさずに健康な生涯を全うできるという寸法から、彼岸の大祭には遠方からも参拝者が後を絶たないそうだ。大きな石仏は聖觀世音菩薩立像で、一本刻みの石仏では国内最大級だそう。この観音寺は檀家も無い無住のお寺なので平生は閑散としているが、桜の名所でもあるので特に春の大祭の頃には大繁盛をするらしい。

もう70年も前のことになるが、小学校の遠足でこの寺の裏山の「樋ノ尻山」に登ったり、祖父祖母に田舎の物見遊山に連れて行かれたこともあった。商売熱心なお寺のようで、護符とご朱印を押したパンツが人気商品だそうで、これを身に付けると“嫁要らず”で元気に往生できるのだそう。通信販売もしているそうで、飛ぶように売れるという。私も仏縁に与って買って来ようかと思ったが、閑散期であったのか寺には誰も人が居なかった。マ、未だかような猿股にお世話になる老齡でも塩梅でもないこの寺の開祖・行基菩薩サマがご判断遊ばされたと思いたい。

序ながら、この寺は“瀬戸内33観音霊場第21番札所”でもあるそうだ。また、西国三十三観音霊場の本尊仏が道端に点々と33体祀られていたので、これも巡拝してきた。お蔭様でたった10分間ほどで西国観音霊場三十三札所の3回目の巡礼の結願と相なった。1回目は本地、2回目はつい先刻拝んで来た大江地区秩父観音霊場第5番に祀られていた西国観音霊場第29番松尾寺観音堂で西国観音霊場33札所を代表させて頂くとして。そして第3回目は、この嫁要らず観音院の西国観音霊場ミニ巡拝であった。



(嫁要らず観音の聖觀世音菩薩立像、一石彫りでは国内最大級)



(本地秩父観音霊場第12番から勧請した聖觀世音菩薩 ⇒)



(嫁要らず観音院例大祭の様子 井原市観光協会 HP から引用)



(ご朱印パンツ。男女各用あり 同左)

⑬「旗下山 慈眼寺」(曹洞宗、聖観世音菩薩)

この札所がある「山王」という場所は、私の実家があった岩倉町から井原市の中心市街地である井原町へ通じる山越えの峠で、私が自転車で井原町の高校へ通っていた頃はお化けや幽霊や魑魅魍魎が跋扈する怖い山中の峠道であった。補習授業などで下校が夜間になった折などは怖くて怖くて御叱呼をチビったものだった。

今は市が造成した大きなニュータウン（四季が丘）ができていて、この第13番も往時は山中の藪の中だったのであろうが、現在では綺麗に区画整理された団地の中にあつた。弘法大師堂も祀られていたので、四国遍路も4回目の結願を果たしたことになるナ。

四国遍路では4回巡拝すれば公認先達の資格が得られるそうだから、そろそろその筋に申請でもしてみるか。左が観音堂、右は大師堂。

(所在地：大江町山王・四ツ堂)



(左：秩父観音堂、右：大師堂)



(秩父第13番・慈眼寺から勧請された聖観世音菩薩)

(台座には「秩父十三番 慈眼寺」の刻字あり)

⑭「長岳山 今宮坊」(臨濟宗南禪寺派、聖觀世音菩薩)

第13番(嫁要らず観音院)から県道井原福山港線へ出る手前の山中の梶草集落の市道脇にあった。周りにはやや開けた土地に田圃が広がっていた。ここの祠は有り難いことに長椅子が置かれていて、山坂を登って来た身には良い休憩所であった。壁も無い吹き抜けスタイルであったので、緑の稲田を渡って来る風が涼しくて気持ち良かった。後1ヶ月もすれば稲刈りが始まるだろう。(所在地:大江町梶草)



⑮「母巢山 少林寺」(臨濟宗建長寺派、十一面観世音菩薩) (所在地:下稲木町馬場迫)

第15番から第31番までは大江地区を離れて稲倉地区(旧稲倉村)に移る。その初っ端の15番は旧稲倉村の村役場や小学校のあった下稲木町の中心部からやや南側の山際にある馬場迫集落の公民館の裏山にあった。周辺は一面の田圃で、穂が出た緑の稲田を渡って来る風が涼しかった。



本尊の聖観世音菩薩の台座には「秩父十五番 蔵福寺」と刻まれていた。秩父本地の現在の15番札所は「少林寺」と呼ばれる寺院であるが、明治時代以前には15番は「蔵福寺」という寺院に置かれていたが明治の廃仏毀釈令によって蔵福寺が廃寺になったのでこの15番札所を引き継いだのが「少林寺」であったという訳である。

この秩父本地15番「少林寺」の本堂はちょっと変わった建物になっていて、純粹の日本寺院ではあるがちょっと目には洋館か南蛮寺を思わせる本堂となっていて興味深い(右の写真)。



実は、本堂の壁が防火に強い白漆喰壁で塗られた土蔵造りであるが、これは明治時代の秩父大火での本堂焼失を教訓にして、火事に強い土蔵造りにしたのだそう。

少し余談が過ぎた。本論に戻ろう。祠の聖観世音菩薩像の奥には大きな丸い向背を背負われた石仏が祀られているが、これは四国八十八所第74番「甲山寺」(香川県善通寺市)のご本尊・薬師如来を勧請して新四国遍路第74番札所として併祀したものである。下左にその部分の拡大写真を示したが、本地甲山寺の薬師如来像(下右、※)と見比べると、そのお顔の表情といいお姿といい、全く本地の御仏を髣髴とさせるような刻彫であった。相当な腕を持った仏師の鑿であろう。往時の人々の信心に寄せる思いが伝わってくる。左の小さい方の石像は言わずと知れた弘法大師である。

ここから先の札所には新四国札所を併祀している札所が多いので、またまた四国遍路第5回目の結願を果たせるかも……。嗚呼、有り難や、有り難や。



(此处、馬場迫の15番に併祀されている薬師如来と弘法大師)

(四国第74番「甲山寺」本尊・薬師如来像⇒)

(※有辯眞念著「四国徧禮道指南」(貞亨四年刊)より引用⇒)



⑩「無量山 西光寺」(真言宗豊山派、千手観世音菩薩)

第16番は、本地と同名の寺号を持ち、また宗派も同じ真言宗である当地の摩尼山西光寺の境内に勧請されている。

当地の西光寺は稲倉地区(旧稲倉村)で唯一の旦那寺であり、遙か神奈川県に移住した我が家も今でもその檀家である。小学校に通っていた頃、4月の観音様の縁日(如意輪観世音菩薩がご本尊)にはお寺で甘茶の接待があって、学校帰りに寺に行ってその甘い甘茶を吞ませて貰うのが楽しみだった。

今は、先祖の年忌法要(上げ法事)で何年かに一回程度お詣りするだけになった。秩父本地の第十六番である同名の「西光寺」(無量山)の本尊である千手観世音菩薩は、本堂の東側の祠の中に祀られていた。御手の数も多くない素朴な刻彫の立像であったが、端正な佇まいに加えてほのぼのとした雰囲気を感じられる温かいお姿であった。その右側には秩父観音霊場札所巡礼の開創記念碑である「奉建立秩父三十四ヶ所」の石碑が建っていて寶暦貳年の銘があった。寶暦貳年と言えば、この地に秩父観音霊場が勧請された年である。この石碑はこの西光寺と秩父観音霊場札所巡礼との深い仏縁を物語っているのではなかろうか。祠の周辺は綺麗に清掃されていて、新しい花も手向けられていて気持ちが良かった。



(西光寺山門)



(千手観世音菩薩立像と巡礼開創記念碑が祀られている境内の祠)

(所在地：下稲木町猪ノ尻)



(端正な千手観世音菩薩立像と巡礼開創記念碑)



⑰「実正山 定林寺」(曹洞宗、十一面観世音菩薩)

第16番・西光寺から稲木川沿い下った岩倉町との町境の山際にある。最近この一山を削って「岩倉工業団地」という工業団地が新たに造成され、その遊水池の山際の墓地の奥にあった。周りが鬱蒼とした藪の中にあるので、少々薄気味悪かった。台座の刻字は摩耗して読みずらかったが、「十七番」が大書されていた。かつての参道は今は藪になっていて通行不能。上記遊水池山際の墓地から登るしかない・



(所在地：下稲木町馬場迫)



⑱「白道山 神門寺」(曹洞宗、聖観世音菩薩)

(所在地：下稲木町兼安)

深田池のすぐ東側にある。小学校の登下校道がこの深田池の傍を通過していたので、学校帰りにこの池の土手で草滑りなどをして道草を喰ったものだった。新四国の仏像(千手観音?)が併祀された祠は重厚な瓦屋根葺き・白壁塗りの立派なものだった。台座に彫られている「長生」は、現在の本地18番「神門寺」がかって修験寺であった頃の寺号「長生院」に拠る。

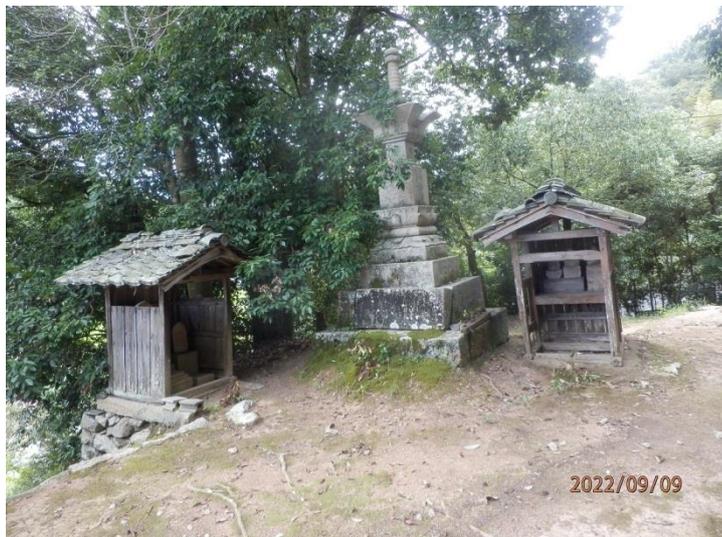


⑱「飛淵山 龍石寺」(曹洞宗、千手観世音菩薩)

(所在地：下稲木町馬場迫)

西光寺から稲木川を渡って少し宮地方面に登って行った馬場迫の集落の山際にある。荒神様の横に宝篋印塔を挟んで左の祠が秩父 19 番、右側の祠が新四国 72 番。

祠は相当に草臥れていたが、秩父第 19 番勧請の千手観世音菩薩は格調高く由緒ある彫のように感じられた。



⑳「法王山 岩之上堂」(臨濟宗南禅寺派、聖観世音菩薩)

20 番から 23 番までの 4 札所は私が生まれた岩倉町にある。井原から笠岡に抜ける県道井原・笠岡線沿いに北から南に順番に点在している。20 番は宮端と夫婦池の中間の道路端に建っている御堂である。中学校や高校に通学していた頃はこの県道を自転車通学していたので、夕立などの折にはこの御堂に雨宿りさせて貰ったものだった。中央聖観音菩薩立像台座の刻字は「秩父郡第二十番 岩上」。

(所在地：岩倉町畦ケ市)。



⑳「要光山 観音寺」(真言宗豊山派、聖観世音菩薩) (所在地：岩倉町奈良原)

夫婦池から県道沿いに少し笠岡方面に行った左の山際を少し登った福天寺境内の外れにある。コンクリートブロックを積んだ祠が二つ並んでいる右側の祠。左は新四国。この県道沿いの場所は岩倉町唯一の平地で田圃が広がっている。県道を挟んだ向うの山際(大木集落)が手に取るようによく見えた。この山際を南北に通っている狭い農道が稲倉小学校への通学路であった。通学路沿いの民家の様子も当時と余り変わっていないようで懐かしかった。



㉑「華台山 童子堂」(真言宗豊山派、聖観世音菩薩) (所在地：岩倉町西ノ谷)。

この22番は、私の実家のすぐ近くにある。子供の頃はここにあった氏神様が近所の子供たちの遊び場であった。当時は荒れた阿弥陀堂が建っていて、この阿弥陀堂に何処からか流れて来た女性が棲み着いていて集落の何処かの男が毎晩通っているとかの噂もあったが、そのことが何を意味するのかは子供には分らなかった。親からはこの阿弥陀堂で遊んではいけないと注意されていたが、それだけにこの場所には何かの秘密があるのではないかと探検ごっこでもしている気分であったことを覚えている。

当時は、集落の空いた御堂などには女性の乞食(瞽女?)が棲み着いていて集落の誰彼との噂が立ったとか立たなかったとかの物議もあったらしいが、これは当時は普通のことであつたらしい。

今は一帯が綺麗に整備されてミニ公園のようになっていた。



(左より、阿弥陀堂、荒神社、一番右奥が観音祠)



(観音堂。左の祠の右側が秩父聖観音、右祠は新四国)

前ページ秩父観音第 22 番札所の
聖観世音菩薩立像（右）



⑳「松風山 音楽寺」（臨濟宗南禅寺派、聖観世音菩薩）

私の実家があった所から目の先徒歩 2 分、県道を渡った山際にある。「岩倉上」バス停から県道をほんの少し笠岡寄りに行き道路が左に急カーブした所を左上に登る。道は細い山道であるが、この地道は峠を越して隣町の県主町に繋がっている。子供の頃はこの道でカブト虫などを採ったものだった。

ここも前の 22 番と同様に氏神様と観音堂が同居している。子供の頃には、田植えや稲刈りが済んだ御子神講の折などに集落の氏神様で子供達に菓子袋などを配る風習があった。菓子袋と言っても中身は家庭で炒った炒り豆くらいで、金平糖の一粒でも入っていれば大喜びしたものだ。

我が集落にも氏神様を祀った祠が 2、3ヶ所程あって、ここを廻って菓子袋を貰うのが年 1 回の子供の楽しみだった。その中でもこの第 23 番には他の集落からも子供が集まって来たので賑やかであった。

当時は簡素な祠であったが、今はご覧のように綺麗に整備されていた。祠の中の左側の石仏が秩父、右側は新四国。（所在地：岩倉町丸山）。



（祠の中の左側の石仏が秩父、右は新四国）



②④「光智山 法泉寺」(臨濟宗南禪寺派、聖觀世音菩薩)

前札所岩倉町の第 23 番から次の札所である隣町・下稲木町の第 24 番へ直接行く最短ルートは、民家が一軒も無い山中の狭い農道伝いになるから、地元岩倉上の人達以外には分りにくいので、西光寺から南に伸びている市道を辿る方が分り易い。

既に 19 番へ行くのに通った道であるが、西光寺から目の前に見える大星山(標高 188m)の山裾をドンドン宮地集落まで登った高越谷分岐の地道の道端にある。草茫々の山際に堂宇が二つ並んでいるが、右奥の小さい祠の方が秩父。祠の天井桟敷には新四国の野仏も祀られていた。(所在地:下稲木町宮地)



②⑤「岩谷山 久昌寺」(曹洞宗、聖觀世音菩薩) (所在地:上稲木町西ノ谷)

②⑥「萬松山 円融寺」(臨濟宗建長寺派、聖觀世音菩薩) (所在地:同上)

一つ前の 24 番札所から次の 25 番に直接行くのには、24 番のある宮地から山中の農道を登って大星山の峠を越えれば県道井原福山港線に突き当たり、この突き当たった場所が 25 番がある上稲木町の西ノ谷集落であるが、この農道は峠まできつい登り坂が続く山道であり、また峠からもキツイ下り坂が続くので歩きのルートには非常にきついルートであった。途中には民家などは全く無く、また休めるような場所も全く無い。只々山中の狭い農道が果てしなく続いているだけである。よって、上稲木町から県道井原福山港線経由で西ノ谷まで行く方がベターである。

さて、その県道と農道合流点の西ノ谷に第 25 番及び 26 番があり、この両者は西ノ谷集落の公民館の横の同じ場所に連座している。25 番は祠の中の方、26 番は露天である。

この県道を匠ヶ池まで下りながら北上すると県道沿いにある 25 番から 31 番までの 7 札所が廻れる。上稲木町にある札所はこの 7 札所だけである。 (写真次葉)



(左露天観音：秩父第 26 番、中央祠付観音：秩父第 25 番、右露天石像：弘法大師坐像)



(秩父第 25 番)



(秩父第 26 番)

②7 「龍河山 大淵寺」(曹洞宗、聖観世音菩薩)

26 番から少し県道を北に下った県道脇の山裾にある。
新四国と併祀。(所在地：上稲木町大迫)



⑳「石龍山 橋立堂」(曹洞宗、馬頭観世音菩薩)

27番から県道を匠ヶ池方面に1kmほど行った片山集落の辻堂(薬師堂)の隣、荒神宮登り口の石鳥居の横にある。第5番(P.5)でも触れたが、ここの本地本尊は本尊としては珍しい馬頭観音菩薩であるので、ここの観音様の頭に馬頭が載っているかどうかを観察してみた。頭頂部が祠の棧に隠れていたのではっきりとは見えなかったが馬頭が刻まれているようだった。

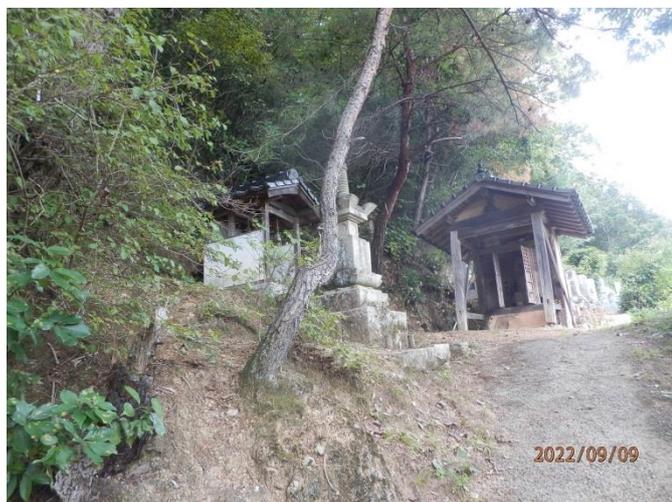
馬頭観音が祀られているような場所は、馬匹に関連した土地柄が多いが、ここも山を挟んだ隣の谷には馬場迫という地名もあるのでかつてはこの辺りに牛の牧があったのかも知れない。また、この県道はかつては中国山地と瀬戸内海を結んだ交通の要路だったので途中で斃死した役馬も多く、その供養や役馬の安全を祈って馬頭観音や馬頭尊が建立されたのかも知れない。(所在地：上稲木町片山)。



㉑「笹戸山 長泉院」(曹洞宗、聖観世音菩薩)

第28番の反対側の山際の墓地の横にある。登り口は片山会館。宝篋印塔の左右に御堂があり、秩父は左側の御堂。右は新四国の御堂。

それにしても、稲倉・大江版の秩父観音札所には宝篋印塔が建立されている場合が多いが、これは誠に丁寧なことである。宝篋印塔の構造は比較的細工が簡単な形状の石を積み上げただけの物が多いが、それにしても石工代や運搬費など鄙には相当の出費であったことであろう。昔はこの地方に信仰心が篤い庶民が住んでいたり、また豪農などの篤志家も多かったのかも知れない。(所在地：上稲木町片山東)



⑩「瑞龍山 法雲寺」

(臨濟宗建長寺派、如意輪觀世音菩薩)

(所在地：上稲木町片山)

29番から少し西ノ谷方面に戻った同じ山際の別な墓地の入り口にある。道路から祠が見える。やや頭を傾けて思念に耽っている仏像の有様が30番の本尊である如意輪觀世音菩薩をよく表現している。御右腕が如意輪觀世音菩薩の特徴である頬杖のようにも見える。如意輪觀音は、迷える衆生をどのようにして救おうかと常に思案しておられるのである。



(左の祠が秩父札所)



(思念に耽っておられる様子の如意輪觀世音菩薩)

⑪「鷲窟山 觀音院」(曹洞宗、聖觀世音菩薩)

(所在地：上稲木町猪尻)

上稲木町の匠ヶ池の北側の一軒農家の裏山にあるそうだが、そこに至る市道が崖崩れ防止工事中で全面通行禁止となっていたために、巡拝できなかった。ご近所の人のお話ではそこには何体かの野仏が露天で祀られているのだが、地面が藪になってきていて最近はお参りする人も居ないと言っておられた。

⑫「般若山 法性寺」(曹洞宗、聖觀世音菩薩)

第32番、33番、34番は再び大江町に入る。32番は中講公民館の近くの民家の間に挟まれた狭い空間に祀られていた。

祠には鳥除けであろうか、網が張ってあるので本尊の聖觀世音菩薩の御顔は拝顔できなかった。



③③「延命山 菊水寺」(曹洞宗、聖観世音菩薩)

(所在地：大江町崎山)

大江小学校の裏山の山頂に鎮座しているが、ここへ登る山道の入り口が非常に分かりにくい。私は市道の傍の第34番から農道に入り急坂を登って行ったが、この農道はスイッチバックのような大迂回路になっていたのでかなり時間が掛った。この山頂付近には電波塔が建っており、そのメンテナンス道路が逆方向の大江小学校の運動場の外側から通じているので、そちら側からアクセスするのが正解であろう。何れから登っても頂上で道はドンツマリとなっていた。



③④「日沢山 水潜寺」(曹洞宗、千手観世音菩薩) 結願札所

最後の結願札所第34番は発願札所・第1番(明星寺)の眼と鼻の先にあった。直線距離にすれば400m程であるが、両者を真っ直ぐに結ぶ道が無いので、33番がある大江小学校の裏山の麓の道を巻かねばならない。下御領井原線という県道の傍にある。祠の敷地が金属柵で囲まれていて敷地に入ることができず、結願の千手観音を拝することもできなかった。たぶん、交通量が多い道路の傍なので、ここにお詣りする人が交通事故に遭わないために設置された柵であろうが、これでは結願札所の雰囲気欠けるし、道路を通過する自動車の騒音が煩くてオチオチお参りできる雰囲気ではなかった。

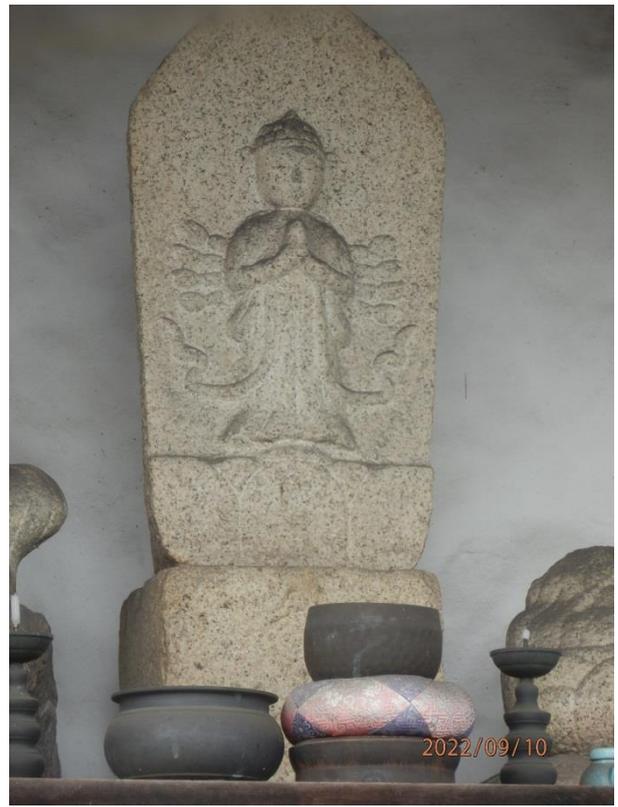
たまにお詣りする参詣者の我々はまだ良いとしても、四六時中ここに坐していなければならないご本尊の千手観音様は誠にお気の毒と言わざるを得ない。

(手前の道路が県道「下御領井原線」、
電柱の左の祠が34番札所)





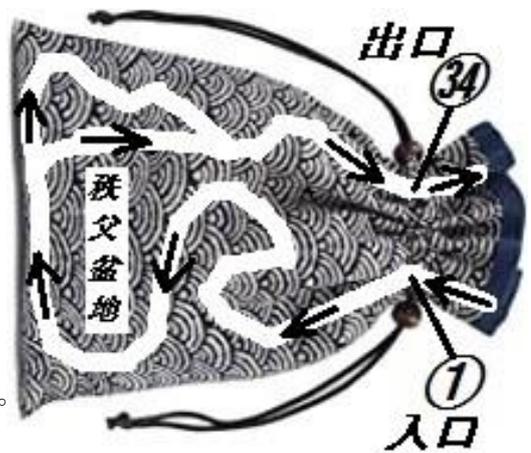
(34 番札所 (結願札所) の祠)



(結願札所のご本尊、千手観世音菩薩立像)

扱て、稲倉・大江版のミニ秩父観音霊場札所巡礼路は1番の大江町在の明星寺から打って行けば、途中スイッチバックなどの戻り順路もあるが大体は時計回りに大江町、下稲木町、岩倉町、上稲木町を廻って最後には再び大江町の第34番・結願札所に戻るという円環型の順路となっている。

それでは本地の秩父はどうであったか？ 秩父では、大概の札所は秩父盆地の真ん中や盆地の縁辺に位置していて、この秩父盆地を巾着の袋に見立てれば首で絞られた巾着の入り口から巾着袋の中に入って巾着袋の中を一巡し帰りは入った時の向かい側の入り口から出て行くという塩梅になっている(右図参照)。即ち、稲倉・大江も秩父の本地もどちらも円環型の順路となっている訳である。



それでは、他の巡礼路はどうなっているのだろうか。

同じく日本百観音霊場の内、坂東観音霊場も第1番・鎌倉の杉本寺からスタートして相模、武蔵、上野、下野、常陸、下総、上総、阿房ノ國の順番で時計回りに巡り、最後は内房の東京湾南端に位置する第33番那古寺で結願するという関東一円の大巡礼であるから、これも東京湾出口の浦賀水道を巾着の首とする円環型を成していると言えよう。

百観音の内、残る西国観音霊場は如何であろうか。西国は那智の1番青岸渡寺から出発して紀伊、和泉、河内、大和、山城、摂津、播磨、丹波、丹後、若狭、近江と時計回りに廻り、最後の33番は美濃の華嚴寺であるから、最初と最後の両端が随分離れていて円環型というには無理がある。

序のことに四国八十八所遍路は如何か。この1番は鳴門の霊山寺からスタートして、徳島県、高知県、

愛媛県、香川県の順に時計回りに廻って、最後の満願寺 88 番は鳴門に近い讃岐の大窪寺であるから、四国を一周するほぼ円環型であると言えよう。

それでは外国の場合はどうか？ 例えば、キリスト教の 3 大聖地、エルサレム、バチカン、サンティアゴ・デ・コンポステーラ（スペイン）の場合は全てそれぞれの目的地（聖地）に到達するだけの旅であり、いわば一本棒の直線型往復運動である。それではイスラム教はどうか？ イスラムの代表的な巡礼であるハッジ（メッカ、メディナ巡礼）もキリスト教の聖地巡礼と同様に直線型往復運動である。

それでは、外国でも東洋ではどうなっているのでしょうか。仏教巡礼では釈迦事蹟由来の仏教四大聖地（ルンビニ、ブッダガヤ、サルナート、クシナガラ）を巡る巡礼が有名であるが、ここも本来の巡礼者は四聖地をグルグルと廻るそうであるから円環型と考えられる。

チベット仏教で有名な中国雲南省の梅里雪山（6,740m）やチベットのカイラス（6,714m）を五体投地で一周する順礼も複数の聖地を巡る円環型であろう。

巡拝最後の満願になって、何故にこのような屁理屈を言い出したのかと訝る向きもあろうが、実は本邦での巡礼のかつての慣習では、最後の結願寺で巡礼の満願を果たした暁には発願寺の 1 番寺まで再び足を運んで巡拝満願の報告とお礼を供奉するという慣習があったからである。そのためには、スタートの一番寺とラストの最終寺（結願寺）が近い場所にあった方が巡礼者には便利であるということになる。

例えば、上述の四国八十八所遍路では、結願寺である 88 番大窪寺を打ち終わって満願を果たした後には、現在では弘法大師に満願の報告とお礼をする為にそのまま和歌山県に渡って高野山にお詣りするのが一般的となっているが、かつては 88 番から香川・徳島県境を越えて鳴門の第 1 番霊山寺にお礼参りした後に、鳴門から高野山に渡ったのだそう。

また、別の観点から言えば、日本の宗教（アニミズム時代からの土着宗教も含めて多神教）が諸々の神仏、及びそれらを宿している自然と共存して巡り歩きながらグルグルと廻るのに対して、西洋の宗教は一神教であるが故に彼らの巡礼の形態は自分たちの神や神殿だけを往復して戻る直線型往復運動であるから、巡り歩くという発想が無い。只々自分自身を見つめて黙々と歩くのみらしい。

換言すれば、日本では多種多様な神仏は勿論のこと、他人であろうが味方であろうが敵であろうが、自然であろうが災害であろうが、全て仏縁が宿っているとして受け入れるという考え方であるのに対して、西洋の人達の一神教では自分が帰依した神様以外とは全く付き合わない（即ち帰依した一神との契約しか信じない）という寸法になる。

この彼我の違いは文化や政治の分野でも何千年間も積み上がってきたことなので、良い悪いではなく、特にグローバルな世界になってきた現在、このことを忘れると無用の国際紛争や民族紛争を引き起こすことになる。

また、本邦の仏道には輪廻転生という考え方がある。これもグルグル廻りながら拝むというスタイルにその基を発しているように思われる。

マ、左様な事をツラツラと思いながら最後の第 34 番の祠の前に佇んでいたのものであるが、この場所は交通量の多い三叉路に面しているので今回のミニ巡礼の来し方を反芻するにはチト場所柄が良くなかった。一つ前の第 33 番なら静かな山頂にあるので、満願の歓びに浸るのにも、種々の反省をイタスのにも好都合と思われるから、できればこの隣り合っている 2 札所の札所番付を入れ替えて頂ければ有り難い。

さて、これで稲倉・大江地区秩父観音霊場の巡拝を終わったが、果たして功德が積めたであろうか。朝から晩まで一日中山道を登ったり下ったり、また札所への道を探すのに迷ったりしていたので、喉も乾いて来た。井原のホテルに戻って一風呂浴びてから裏通りの酒亭に夜巡拝をしに出かけよう。合掌。

~~~~~

末尾になったが、これからこの稲倉・大江地区秩父観音霊場巡拝路を辿られる方々のご参考のために、二三のことを記して筆を擱くことにしたい。

①34 札所を歩いて巡拝した感想を一言で言えば、まずは、生きて行くだけでも大変であったであろう往時の民衆が、辿るのも困難な山中にご本尊仏や堂宇、巡礼路等の勧請や普請を行なって仏縁を守り続けて来られたということ、また、その仏縁を引き継いで祠や仏像を大切に護持保存されてきた近隣の現代の住民の方々の熱意に只々頭が下がる思いがした。

次には“ああ、草臥れた”であった。私の年齢が近々八十路に入るロートルであること、巡拝したシーズンが未だ真夏の猛暑の時期であったことを差し引いても、一巡約 30km の道程を標準行程タイムの連続 2 日間で歩き通すということは老人には少々きついことであろう。

②巡拝の足は、歩き、自転車、車が考えられるが、札所は山中の細い道（歩道や畦道程度）を経る場所が多いので車は適切ではない。また、自転車も通れない道も多く、アップダウンもかなりあるので、ご自分の足で廻るのがベストと思われる。大凡巡礼という営為は歩くことによって功德も生じるのであろう。

③獣道や藪を通らないと辿り着けない札所も多いし、周囲が樹林や藪という場所柄も多いので、虫除け対策（虫除けスプレーなど）が必要である。真夏の炎天下には陽光を遮る樹陰帯も無い場所が多いので、日焼け止め対策も必要になる。

④巡拝路の途中には、極く一部の中心集落を除いてコンビニや飲み物自動販売機などは全く無い。また食堂なども皆無であるから、水分や食料を十分に持参しなければならない。また、途中には公衆トイレなどの設備がある所は無い。

⑤札所の道案内道標や表示版、看板の類は一切設置されていない。ご近所にお住まいの方々にお聞きしても場所が分からない場合が多いし、特に夏場や冬場には集落の中でも全く人影が無く道を尋ねる術も無いので、ご自分で大体の見当を付けて探すしかない。祠や御堂は秩父霊場以外の堂宇（例えば荒神宮など）が建っている場所も多いので、目標の祠を間違わないようにしたい。

以上のようなことから、目標を探すための時間や、道迷いに費やす時間、途中での休憩時間なども含めて所要時間を十分に大目に（予め分かっているルートを辿る場合の所要時間の 2~3 倍程度の時間的余裕を見積もって）行程を立てることが肝腎であろう。

(了)

(本項 2022 年 9 月 記)